

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.132

2010/11/25

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 今年も山門老人会と保全作業

## 諸事業続き多忙を極める

休憩時間の皆さんとの懇談が楽しい(10/11/06)

Photo by HIROSHI



「にぎわい TENT 村」出店(10/11/07)

本会設立以来の一大事業の COP10 が終了しホッとする間もなく、次々と活動が続いています。本年塩津の「道の駅」が開設され関連事業として 11 月 7 日に「道の駅」で「にぎわい TENT 村」が開催されました・これは地域の諸団体が、日頃の活動を紹介したり、活動の成果製品を販売する等地域との連帯を深めるための事業です。本会も趣旨に賛同し出展・出店を行いました。活動紹介と物品販売を行いました。収益という面では成果は大きなものではありませんでしたが、地域ではこんな地道な活動をしている団体もあることの認知度を上げるという面では一定の成果があったと感じています。地域で開催される様々な活動に顔出しすることで、地域の方々に溶け込んでゆく努力が今後も必要だと思ひます。名もない会が 10 年を経過して、一定の認知度得られるようになったのは、こうした地道な活動の積み重ねがあるからこそと思ひます。



西浅井観光協会主催ハイキング(10/11/10)



ササユリ播種作業10/11/20)



ササユリ金網撤去10/11/10)

収益という面では成果は大きなものではありませんでしたが、地域ではこんな地道な活動をしている団体もあることの認知度を上げるという面では一定の成果があったと感じています。地域で開催される様々な活動に顔出しすることで、地域の方々に溶け込んでゆく努力が今後も必要だと思ひます。名もない会が 10 年を経過して、一定の認知度得られるようになったのは、こうした地道な活動の積み重ねがあるからこそと思ひます。



## 森では地道な保全作業が 日々続いています

対外的な活動もさることながら、本会の主目的である「森の生物多様性」を保全するための作業も日々続いています。紅葉最盛期を迎えた現在、日々多くの来訪者で賑わっています。が多くの来訪者を迎えることそのことが本会の主目的ではありません。「生物の多様性」を如何に保全してゆくか、そのために森で何をすべきかを考え実践してゆくことこそが求められています。「多様性」が保全されれば、人はそれを求めて動きます。整備された観察コース・林床・群落があればこそ、人はそれを求めて動きます。その基盤づくりこそが本会の仕事ということになります。もっともいつも議論しているように、多くの来訪者を迎えることでコースが荒廃し、その尻ぬぐいに追われるようでは主客が逆転することになります。この点を今後も確認しつつ活動を続けたいものです。



「中窓」にベンチ設置するレンジャー(10/11/16)



このベンチに座すと正面に「伊吹山」(10/11/16)



トクワカソウ群落林床整備(10/11/19)



林床整備ができてこそこの景観(10/11/19)



ミヤコザミ播種(10/11/17)



クルマバハグマザミ播種(10/11/17)

今森での保全作業の中心は、林床整備です。美しく紅葉が楽しめる森も、倒木や枯死木を放置した状態では本来の美しさを感じることが出来ません。そのため観察コース沿いを中心に林床整備を進めています。この作業過程で「中窓」や「四季の森」には、枯死木を利用してベンチも作成し来訪者に喜ばれています。また3年目となるササユリの播種やミヤコザミ・クルマバハグマの播種も行いました。森の生物多様性保全の活動は着々と進行しています。



コース補修用の砂礫を持ち上げる会員(10/11/20)



木柵改修工事進行しています(10/11/22)